

# 琉球大学学術リポジトリ

## 陶淵明の年齢及び作品成立時期各家対照

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2010-01-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上里, 賢一, Uezato, Kenichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/15007">http://hdl.handle.net/20.500.12000/15007</a>

## 陶淵明の年齢及び作品成立時期各家対照

上 里 賢 一

まえがき

ある詩人がいつどこで生まれ、いつ死んだか、その間彼はどこに住み何をしたか、ひとつひとつの作品はいつ如何なる状況下で作られたか、このようなことを全て知ることは不可能なことだし、また必要なことでもなからう。

しかし、一人の詩人について与えられている資料が同じで、同じ作品を読みながら、その詩人の享年について、研究者によって六三歳、六一歳、五十六歳等と、その意見が幾様にも分かれるのは実に奇異なことである。(ちなみに、享年については五一歳から七六歳までの間で六通りもの考え方があつた)。そして、この享年についての意見の相違は、作品内容の理解の相違とそのまま結びついており、それは当然作家像の違いにも反映している。そのため本来作品理解の手段であるはずの享年・事蹟研究は、作品研究と不可分の重要な課題となる。

享年について幾通りもの意見があつて定説がないのと同様、作品成立の年代についてもまた多くの説があつて対立している。享年についての見方が違えば、作品の成立年代も違うのは自然なわけだが、同じく五十六歳説あるいは六三歳説をとりながらひとつひとつの作品の成立年代については、また違う立場をとるといふことがある。たと

えば、享年については同じく六三歳をとりながら、「五柳先生伝」という作品について楊勇・大矢根文次郎らが、二八・三〇歳をとるのに対し、李長之は四二歳頃の作とし、遼欽立は五六歳の時の作とする。「閑情賦」については、大矢根文次郎三〇歳、李長之四二歳ごろ、楊勇五八歳とするなど、その振幅が大きい。五六歳説の場合も事情は同様で、「命子」について梁啓超・方祖桑が二一歳の時の作とするのに対し、李辰冬は三五歳とする。「詠貧士」については方祖桑三二歳、李辰冬五〇歳とするなど、享年についての一致が必ずしも個々の作品の成立時の一致にはならないことを示している。

したがって、作品をどう読みどう解釈するか、その結果いかなる陶淵明像を描くかということと、淵明の年譜をどのように作成しその年譜のどこに個々の作品を排列するかということは、密接不可分のものということになる。長い年月多くの研究者によって研究されてきて、なお諸説紛紛として確定されないのはいろいろな理由がある。筆者の課題は、享年と作品成立時期について諸家の根拠とするとを吟味し、その論拠を比較検討することにある。今ここに掲げる三つの表は、その作業の前段階としての目的のもとに作成したものである。姓名・号の呼び方にはじまって、享年・事蹟・作品の成立年代等、作家研究の入口の部分でこれほど謎の多い詩人も珍しいのではなからうか。その実像に一步でも近づくため、従来の研究者の代表的見方を整理し直しておこうというわけである。

陶淵明年齡各家對照表

三六五	三六六	三六七	三六八	三六九	三七〇	西曆	各家年齡比較
晉哀帝 興寧三年	海西公 太和元年	太和二年	太和三年	太和四年	太和五年	中國年號	
乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	甲子	
十四	十五	十六	十七	十八	十九	張續	
一	二	三	四	五	六	陶澍	
		一	二	三	四	郭銀田	
						梁啓超	
						古直	
						吳肇甫	

三七九	三七八	三七七	三七六	三七五	三七四	三七三	三七二	三七一
太元四年	太元三年	太元二年	太元元年	寧康三年	寧康二年	寧康元年 孝武帝	簡文帝 咸安二年	太和六年
己卯	戊寅	丁丑	丙子	乙亥	甲戌	癸酉	壬申	辛未
二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇
一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七
一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五
八	七	六	五	四	三	二	一	
四	三	二	一					
三	二	一						

三八八	三八七	三八六	三八五	三八四	三八三	三八二	三八一	三八〇
太元一三年	太元一二年	太元一一年	太元一〇年	太元九年	太元八年	太元七年	太元六年	太元五年
戊子	丁亥	丙戌	乙酉	甲申	癸未	壬午	辛巳	庚辰
三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九
二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六
二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九
一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五
一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四

三九七	三九六	三九五	三九四	三九三	三九二	三九一	三九〇	三八九
隆安 元年 帝	太元二 一年	太元二 〇年	太元一 九年	太元一 八年	太元一 七年	太元一 六年	太元一 五年	太元一 四年
丁酉	丙申	乙未	甲午	癸巳	壬辰	辛卯	庚寅	己丑
四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八
三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五
三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三
二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八
二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三

四〇六	四〇五	四〇四	四〇三	四〇二	四〇一	四〇〇	三九九	三九八
義熙二年	義熙元年	元興三年	元興二年	元興元年	隆安五年	隆安四年	隆安三年	隆安二年
丙午	乙巳	甲辰	癸卯	壬寅	辛丑	庚子	己亥	戊戌
五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七
四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四
四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七
三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二



四一五	四一四	四一三	四一二	四一一	四一〇	四〇九	四〇八	四〇七
義熙一一年	義熙一〇年	義熙九年	義熙八年	義熙七年	義熙六年	義熙五年	義熙四年	義熙三年
乙卯	甲寅	癸丑	壬子	辛亥	庚戌	己酉	戊申	丁未
六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六
五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三
四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一
四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六
四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一

四二四	四二三	四二二	四二一	四二〇	四一九	四一八	四一七	四一六
景平二年	景少平元年 少平帝	永初三年	永宋初武二年 武帝	元熙二年	元恭熙元年 恭熙帝	義熙一四年	義熙一三年	義熙一二年
甲子	癸亥	壬戌	辛酉	庚申	己未	戊午	丁巳	丙辰
七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五
六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二
五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇
五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五
四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一
四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇

四二五	文 嘉 二 年 帝	乙丑	七四	六一	五九	五四	五〇	四九
四二六	元嘉三年	丙寅	七五	六二	六〇	五五	五一	五〇
四二七	元嘉四年	丁卯	七六	六三	六一	五六	五二	五一

〔注 記〕

一 右の表は、七六歳から五一歳までの説について、上から年齢の多いものから順に並べた。

二 張縝の七六歳説は、今は伏してしまつてその全体を見ることはできなくなった『呉譜弁証』中の『先生《辛丑遊斜川》詩言「開歲條五十」、若以詩為正、則先生於壬子歲、自壬子至辛丑、為年五十、迄丁卯考終、是得年七十六。」という記載を根拠とする。（『陶淵明研究資料彙編』台北・明倫出版九七頁参照。）

三 六三歳説は、南宋呉質の栗里譜（『陶淵明研究資料彙編』台北・明倫出版七八〜九七頁参照）に始まつて、呉仁傑『陶靖節先生年譜』、陶澍『靖節先生年譜考異』、その他多数あるが、ここでは陶澍で代表させた。日本においては大矢根文次郎『陶淵明研究』の年譜、一海知義『陶淵明』（岩波及び筑摩本の年譜）、その他、いずれもこの六三歳をとる研究者が多い。

六三歳説の根拠は、沈約の『宋書』隱逸伝、蕭統『陶淵明伝』、『晋書』隱逸伝等にある「元嘉四年卒年六十三」という記載と、陶淵明の「自祭文」・「挽歌詩」等の内容が、その主なものである。

四 郭銀田の六一歳説は、まず七六、五六、五二、五一の諸説に反論した後、六三歳説について検討している。ここで彼は、六三歳説の根拠となる各史伝の記載と陶淵明自身の詩文の記録を検討し、淵明が六〇歳を三年も越えて生存した可能性の小さかったことを論証し、六一歳という推論をしている。『田園詩人陶淵明』第四章陶淵明的生平及其生活、第一節参照。）

五 五六歳説を唱える研究者は、梁啓超の他何人かいて、六三歳説と並んで陶淵明の享年問題での勢力を二分する有力な説である。梁啓超は、六三歳のよりどころである『宋書』以下各史伝の記録を検討したあと、五六歳説の根拠として、次の十二点を挙げている。

- ① 誤落塵網中、一去三十年（帰国田居）
- ② 開歲條五十、吾生行帰休（辛酉歲正月五日遊斜川）
- ③ 僮俛六九年五十四年（怨詩楚調）
- ④ 弱冠二十逢世阻、始室喪其偏（同上）
- ⑤ 僮俛四十年（連雨独飲）
- ⑥ 閑居三十載、遂与塵事冥（辛丑歲七月赴假還江陵夜行塗口）
- ⑦ 総髮抱孤念、奄出四九三十九年（戊申歲六月中遇火）
- ⑧ 行行向不惑四十、淹留自無成（飲酒）
- ⑨ 是時向立年三十、志意多所恥（同上）
- ⑩ 奈何五十年、忽已親此事（雜詩）
- ⑪ 吾年過五十（与子儼等疏）

⑫ 我年二十六爾纔九齡（祭程氏妹文）（梁啓超『陶淵明』台湾中華書局参照。）  
古直の五二歳説は、「自祭文」・「挽歌詩」・「与子儼等疏」をもとにしての推論。

陶淵明作品成立時期各家對照表(一) (六三歲說)

⑥	⑤	④	③	②	①	作品名	作品成立時期及年齢									
答 龐  (參四言) 軍	酬 丁 柴 桑	贈 長 沙 公	榮  木	時  運	停  雲		楊 勇	元嘉二十一年 六一歲	義熙一四年 五四歲	義熙一四年 五四歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲
			元興三年 四〇歲		元興三年 四〇歲	李長之			元興三年 四〇歲	景平元年 五九歲	元興三年 四〇歲					
			元興三年 四〇歲		元興三年 四〇歲	逸欽立	元嘉元年 六〇歲				元興三年 四〇歲					
					元興三年 四〇歲	一海										
			元興三年 四〇歲		元興三年 四〇歲	大矢根	景平元年 五九歲	義熙一四年 五四歲	元熙元年 五五歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲					
			元興三年 四〇歲			岡村	景平元年 五九歲									

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦
乞 食	企 謝 周 景 夷 三 郎	遊 斜 川	婦 園 田 居	九 日 閑 居	形 、 影 、 神	婦 鳥	命 子	勸 農
元 嘉 三 年 六 二 歲	義 熙 二 年 五 二 歲	隆 安 五 年 三 七 歲	義 熙 二 年 四 二 歲	景 平 二 年 六 〇 歲	義 熙 九 年 四 九 歲	義 熙 二 年 四 二 歲	太 元 一 六 年 二 七 歲	元 興 二 年 三 九 歲
太 元 一 八 年 二 九 歲	義 熙 二 年 五 二 歲	永 初 二 年 五 七 歲	義 熙 二 年 四 二 歲		義 熙 九 年 四 九 歲			元 興 二 年 三 九 歲
元 嘉 三 年 六 二 歲	義 熙 二 年 五 二 歲	義 熙 一 〇 年 五 〇 歲	義 熙 二 年 四 二 歲	義 熙 四 年 五 四 歲	義 熙 九 年 四 九 歲			元 興 二 年 三 九 歲
	義 熙 二 年 五 二 歲	隆 安 五 年 三 七 歲	義 熙 二 年 四 二 歲					
元 嘉 三 年 六 二 歲	義 熙 一 三 年 五 三 歲	永 初 二 年 五 七 歲	義 熙 二 年 四 二 歲	元 熙 元 年 五 五 歲	義 熙 九 年 四 九 歲	義 熙 元 年 四 一 歲	太 元 一 八 年 二 九 歲	元 興 二 年 三 九 歲
	義 熙 二 年 五 二 歲	永 初 二 年 五 七 歲	義 熙 元 年 四 一 歲			義 熙 元 年 四 一 歲		

⑭	和郭主簿	元興元年 三八歲	太元一九年 三〇歲 (または三三、 四歲?)	義熙四年 四四歲 (この時第一 首成る)		元興二年 三九歲	元興二年 三九歲
⑮	酬劉柴桑	義熙八年 四八歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲		義熙五年 四五歲	
⑯	和劉柴桑		義熙六年 四六歲?	義熙五年 四五歲		義熙五年 四五歲	
⑰	移居	義熙六年 四六歲	義熙四年 四四歲	義熙七年 四七歲		義熙六年 四六歲	義熙四年 四四歲
⑱	連雨独飲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲	元興三年 四〇歲
⑲	戴五月旦作和簿	隆安五年 三七歲		義熙九年 四九歲		義熙九年 四九歲	
⑳	答龐參軍		景平元年 五九歲	元嘉元年 六〇歲	景平元年 五九歲?	景平元年 五九歲	景平元年 五九歲
㉑	龐主簿鄧治中	義熙一四年 五四歲	義熙一四年 五四歲	義熙一四年 五四歲	義熙二四年 五四歲?	義熙一四年 五四歲	義熙一四年 五四歲
㉒	怨詩楚調示						
㉓	諸人共遊周	義熙一四年 五四歲				義熙一四年 五四歲	



③3	③2	③1	③0	②9	②8	②7	②6	②5
還江陵夜行塗口 辛丑歲七月赴假	從都還阻風於規林 庚子歲五月中	經作曲阿作軍 始作鎮軍參軍	悲從弟仲德	顧胡西曹示 和胡西曹示	歲暮和張常侍	贈羊長史	與殷晉安別	送於王撫軍客坐
隆安五年 三七歲	隆安四年 三六歲	元興三年 四〇歲		元興二年 三九歲	義熙一四年 五四歲	義熙一三年 五三歲	義熙七年 四七歲	永初二年 五七歲
隆安五年 三七歲	隆安四年 三六歲	元興三年 三五歲以前			義熙一四年 五四歲	義熙一三年 五三歲	義熙七年 四七歲	永初二年 五七歲
隆安五年 三七歲	隆安四年 三六歲	元興三年 四〇歲				義熙一三年 五三歲	義熙七年 四七歲	永初二年 五七歲
隆安五年 三七歲	隆安四年 三六歲	隆安三年 三五歲			義熙一四年 五四歲	義熙一三年 五三歲	義熙七年 四七歲	永初二年 五七歲
隆安五年 三七歲	隆安四年 三六歲	隆安三年 三五歲	義熙五年 四五歲	元興二年 三九歲	義熙一四年 五四歲	義熙一三年 五三歲	義熙七年 四七歲	永初二年 五七歲
隆安五年 三七歲	隆安四年 三六歲	隆安三年 三五歲			義熙一四年 五四歲	義熙一三年 五三歲	義熙七年 四七歲	永初二年 五七歲

④2	④1	④0	③9	③8	③7	③6	③5	③4
飲  酒	於丙辰歲八月 下漢田舍樓中	於庚戌歲九月 西田樓早稻中	九己酉歲九月 日	中戊申歲六月 遇火	還  旧居	乙巳歲三月為建 威參軍使都經錢溪	癸卯歲十二月 中作与從弟敬遠	懷癸卯歲始春 古田舍
義熙一三年 五三歲	義熙一二年 五二歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲	義熙四年 四四歲	義熙一三年 五三歲	義熙元年 四一歲	元興二年 三九歲	元興二年 三九歲
義熙元年 四一歲	義熙一二年 五二歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲	義熙四年 四四歲	義熙元年 四一歲	義熙元年 四一歲	元興一二年 三九歲	元興一二年 三九歲
元興二年 三九歲	義熙一二年 五二歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲	義熙四年 四四歲	義熙一〇年 五〇歲	義熙元年 四一歲	元興二年 三九歲	元興二年 三九歲
	義熙一二年 五二歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲	義熙四年 四四歲		義熙元年 四一歲	元興一二年 三九歲	元興一二年 三九歲
義熙一四年 五四歲	義熙一二年 五二歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲	義熙四年 四四歲	義熙元年 四一歲	義熙元年 四一歲	元興二年 三九歲	元興二年 三九歲
	義熙一二年 五二歲	義熙六年 四六歲	義熙五年 四五歲	義熙四年 四四歲	義熙元年 四一歲	義熙元年 四一歲	元興一二年 三九歲	元興一二年 三九歲

⑤0	④9	④8	④7	④6	④5	④4	④3
詠 貧 士	雜 詩	擬 古	蜡 日	有 會 而 作	責 子	述 酒	止 酒
元 熙二 年 五 六 歲	義 熙一 〇年 五 〇歲	義 熙元 年 四 一歲	義 熙一 三年 五 三歲	元 嘉三 年 六 二歲	義 熙二 年 四 二歲	永 初二 年 五 七歲	義 熙九 年 四 九歲
	義 熙一 〇年 五 〇歲 (大 部分 を こ の 項 を )	永 初一 年 五 七歲 ?		義 熙一 四年 五 四歲 ?	隆 安四 年 (三 六、 七 歳 以 後 ?)	永 初二 年 五 七歲 ?	
元 嘉三 年 六 二歲		永 初元 年 五 六歲		元 嘉三 年 六 二歲	義 熙一 年 五 一歲	永 初二 年 五 七歲 以 後	
						永 初二 年 五 七歲 ?	
永 初元 年 五 六歲	元 嘉元 年 六 〇歲 前 (三 〇〇 の 間 )	永 初二 年 五 七歲	義 熙一 四年 五 四歲	元 嘉三 年 六 二歲	義 熙四 年 四 四歲	永 初二 年 五 七歲	義 熙九 年 四 九歲
		其 九 (元 興三 年 四 〇歲)					其 十六 (元 興二 年三 九 歳)

⑤8	⑤7	⑤6	⑤5	⑤4	⑤3	⑤2	⑤1
閑 情 賦	感 士 不 遇 賦	連  句	挽  歌  詩	読  山 海 經	詠  荆  軻	詠  三 良	詠  二 疏
永初三年 五八歳	永初三年 五八歳			永初三年 五八歳	景平元年 五九歳	景平元年 五九歳	景平元年 五九歳
義熙二年 四二歳?			元嘉四年 六三歳	義熙二年 四二歳? 永初二年 五七歳?	永初二年 五七歳	永初二年 五七歳?	
	義熙二年 四二歳		義熙一年 五一歳	義熙四年 四四歳			
太元一九年 三〇歳	永初三年 五八歳	義熙一四年 五四歳以後	元嘉四年 六三歳	永初三年 五八歳	永初二年 五七歳	永初二年 五七歳	永初二年 五七歳
			元嘉四年 六三歳				

⑥⑥	⑥⑤	⑥④	⑥③	⑥②	⑥①	⑥⑦	⑤⑨
与子儼等疏	尚長禽慶贊	扇上画贊	読史述九章	五柳先生伝	晋故征西大將軍長史孟府君伝	桃花源並序記	帰去来兮辞
永初二年 五七歳		元熙二年 五六歳	元熙二年 五六歳	太元一七年 二八歳	元興二年 三九歳	義熙一三年 五三歳	義熙元年 四一歳
永初元年 五六歳?			永初元年 五六歳?	義熙二年 四二歳?	義熙一四年 五四歳?	義熙一四年 五四歳?	義熙元年 四一歳?
義熙一一年 五一歳			永初元年 五六歳前後	隆安五年 三七歳	元熙元年 (五五歳?) 義熙一四年 (五四歳?)	成(この年序文 成る翌年完 成)	義熙元年 四一歳
義熙一一年 五一歳?			太元一九年 三〇歳				義熙二年 四二歳?
景平元年 (五五九歳 五六〇歳 五六一歳 五六一歳)		永初元年 五六歳	永初元年 五六歳	太元一九年 三〇歳	元興元年 三八歳	永初二年 五七歳	義熙元年 四一歳
							義熙元年 四一歳

⑦①	⑦②	⑥⑨	⑥⑧	⑥⑦
輔集 録聖 上賢 下羣	五孝 伝	自祭 文	祭從弟敬遠文	祭程氏妹文
			義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳
		元嘉四年 六三歳	義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳
		元嘉四年 六三歳	義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳
		元嘉四年 六三歳	義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳
		元嘉四年 六三歳	義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳
		元嘉四年 六三歳	義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳
		元嘉四年 六三歳	義熙七年 四七歳	義熙三年 四三歳

〔注記〕

一、作品の排列は、陶澍『靖節先生集』の順序に従って、その上に番号を付した。  
 二、六三歳説は、もつとも広く言われているもので、この説を支持する研究者が多い。多数の研究者の中から、中国と日本から三人ずつ選んで比較してみた。参考にした文献はそれぞれ次の通りである。

○楊勇『陶淵明集校箋』（台北・正文書局）

○李長之著、松枝茂夫・和田武司訳『陶淵明』（筑摩書房）

○遼欽立『陶淵明集』（北京・中華書局）

○ 一海知義『陶淵明』（岩波書店）

○ 大矢根文次郎『陶淵明研究』（早稲田大学出版部）

○ 岡村繁『陶淵明―世俗と超俗』（日本放送出版協会）

三、表中の空欄は、各家の原著で空白になっているもの、年齢の下の（？）印は、各家の原著で推論になっていたり、疑問符が付されていて確定されていないことを示す。

陶淵明作品成立時期各家對照表(一) (五六歲說)

⑥	⑤	④	③	②	①	作品名	
答龐參軍 (四言)	酬丁柴桑	贈長沙公	采木	時運	停雲		
義熙七年 四〇歲			義熙七年(四〇歲)以後作			梁啓超	作品成立時期及 び年齡
元嘉元年 五三歲	元興三年 三三歲		義熙七年 四〇歲	元興二年 三二歲		李辰冬	
景平元年 五二歲			義熙七年 四〇歲	義熙中期 婦隱後	永初元年 四九歲	方祖桑	
			○○			備考	



⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦
乞 食	景 夷 三 郎 示周統之祖企謝	遊 斜 川	婦 園 田 居	九 日 閒 居	形 、 影 、 神	婦 鳥	命 子	勸 農
永 嘉 元 年 五 三 歳	義 熙 一 二 年 四 五 歳	永 初 二 年 五 〇 歳	元 興 二 年 三 二 歳				次子俣の生まれる前。 (俣は太元一七年 二一歳の時生まれる)	
永 初 二 年 五 〇 歳	義 熙 一 二 年 四 五 歳	永 初 二 年 五 〇 歳	義 熙 二 年 三 五 歳	元 嘉 三 年 五 四 歳	義 熙 七 年 四 〇 歳	義 熙 二 年 三 五 歳	義 熙 二 年 三 五 歳	元 興 二 年 三 二 歳
元 嘉 三 年 五 五 歳 前 後	義 熙 一 二 年 四 五 歳	永 初 二 年 五 〇 歳	義 熙 二 年 三 五 歳	義 熙 一 四 年 四 七 歳	義 熙 九 年 四 二 歳	義 熙 元 年 婦 隱 後	太 元 一 七 年 二 一 歳	元 興 二 年 三 二 歳
	● 楊 李 遼 一 岡	△ 遼 ● 李 大 岡	● 楊 李 遼 一 大			● 大 岡		◎

⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
和郭主簿	酬劉柴桑	和劉柴桑	移居	連雨獨飲	主五月旦作和戴簿	答龐參軍 (五言)	怨詩楚調示龐主簿鄧治中	墓諸人共遊周家柏下
			義熙五年 三八歲 <sup>①</sup>	義熙七年 四〇歲		義熙七年 四〇歲	元嘉二年 五四歲	
元興二年 三二歲	元興二年 三二歲	隆安四年 二九歲	義熙五年 三八歲	義熙七年 四〇歲	義熙七年 四〇歲	永初三年 五一歲	元嘉二年 五四歲	義熙五年 三八歲
義熙元年 三四歲以後	義熙一〇年 四三歲前後	義熙一〇年 四三歲前後	義熙六年 三九歲	義熙七年 四〇歲		景平元年 五二歲	元嘉三年 五五歲	
							● △六三歲說全員	

③3	③2	③1	③0	②9	②8	②7	②6	②5
還江陵夜行塗口 辛丑歲七月赴	都還阻風於規林 庚子歲五月中	始作鎮軍參軍 經曲阿作	悲從弟仲德	賊和胡西曹示顧 曹	歲暮和張常侍	贈羊長史	與殷晉安別	於王撫軍坐送客
隆安五年 三〇歲	隆安四年 二九歲	隆安二年或三年 二七歲或二八歲				義熙一三年 四六歲	義熙六年 三九歲	義熙一四年 四七歲以後
隆安五年 三〇歲	隆安四年 二九歲	太元二〇年 二四歲	隆安四年 二九歲		義熙一四年 四七歲		義熙六年 三九歲	元嘉元年 五一歲
隆安五年 三〇歲	隆安四年 二九歲	隆安三年 三八歲			義熙一四年 四七歲	義熙一三年 四六歲	義熙七年 四〇歲	元熙元年 四八歲
◎	◎	● 李 一 大 岡			● 六三歲說全員	● 六三歲說全員		

④2	④1	④0	③9	③8	③7	③6	③5	③4
飲 酒	於丙辰歲八月 下撰田舎樓	於庚戌歲九月 西田樓早稻中	九己酉歲九月 日	遇戊申歲六月 火中	還 旧 居	威乙巳歲三月為建 參軍使都經錢深	作癸卯歲十二月 與從弟敬遠	田癸卯歲始春懷古 舎
義 四〇歲前後	義 熙一二年 四五歲	義 熙六年 三九歲	義 熙五年 三八歲	義 熙四年 三七歲	元 興二年 三二歲	義 熙元年 三四歲	元 興二年 三二歲	元 興二年 三二歲
義 熙一二年 四五歲	義 熙一二年 四五歲	義 熙六年 三九歲		義 熙四年 三七歲	隆 安四年 二九歲	義 熙元年 三四歲	元 興二年 三二歲	元 興二年 三二歲
義 熙七年 四〇歲(義熙八年 秋の可能性あり)	義 熙一二年 四五歲	義 熙六年 三九歲	義 熙五年 三八歲	義 熙四年 三七歲	義 熙元年 三四歲	義 熙元年 三四歲	元 興二年 三二歲	元 興二年 三二歲
	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎

⑤⑥	④⑨	④⑧	④⑦	④⑥	④⑤	④④	④③
詠 貧 士	雜 詩	擬 古	蜡 日	有 會 而 作	責 子	述 酒	止 酒
	○九、十、十一、十三首 は永初二年より後 一〜八首は永初二 年前後	永初二年前後 五〇歳前後		元嘉元年 五三歳	義熙二年 三五歳前後	元熙二年 四八歳	
永初二年 五〇歳	永初二年 五〇歳	義熙二年 三五歳		永初三年 五〇歳	義熙二年 四五歳		元嘉四年 五六歳
元興二年 三二歳	隆安五年(三〇歳) 或は元興三年(三三 歳)			元嘉三年 五五歳前後	義熙二年 三五歳	永初二年 五〇歳	
				● 楊 逵 大	● 楊		

⑤9	⑤8	⑤7	⑤6	⑤5	⑤4	⑤3	⑤2	⑤1
帰 去 来 兮 辞	閑 情 賦	感 士 不 遇 賦	連 句	挽 歌 詩	読 山 海 經	詠 荆 軻	詠 三 良	詠 二 疏
義 熙 元 年 三 四 歳			元 嘉 四 年 五 六 歳	元 嘉 四 年 五 六 歳				
義 熙 元 年 三 四 歳	義 熙 元 年 三 四 歳	義 熙 元 年 三 四 歳	元 嘉 四 年 五 六 歳	元 嘉 四 年 五 六 歳	義 熙 二 年 三 五 歳	太 元 一 七 年 二 〇 歳	太 元 一 七 年 二 〇 歳	義 熙 二 年 三 五 歳
義 熙 元 年 三 四 歳 ( 帰 隠 後 )				元 嘉 四 年 五 六 歳	晋 の 末			
● 楊 李 逸 大 岡				● 李 大 岡				

68	67	66	65	64	63	62	61	60
祭從弟敬遠文	祭程氏妹文	与子儼等疏	尚長禽慶贊	扇上画贊	讀史述九章	五柳先生伝	晋故征西大將軍 長史孟府君伝	桃花源記
義熙七年 四〇歳	義熙三年 三六歳	元嘉四年 五六歳						隆安前後 二六〜三〇歳?
義熙七年 四〇歳	義熙三年 三六歳	元嘉四年 五六歳				義熙二年 三五歳		元興二年 三二歳
義熙七年 四〇歳	義熙三年 三六歳				永初元年 四九歳			
◎	◎	△ ⊙李						

⑦①	集賢聖羣輔 録上、下	⑦②	五孝伝	⑥⑨	白祭文	元嘉四年 五六歳	元嘉四年 五六歳	●六三歳全員
----	---------------	----	-----	----	-----	-------------	-------------	--------

〔後記〕

- 一、作品の排列は、陶澍『靖節先生集』の順序に従って、その上に番号を付した。
- 二、梁啓超の説は、『陶淵明』（台湾中華書局印行）の「陶淵明年譜」を参考にして作成した。
- 三、李辰冬の説は、『陶淵明評論』第一章「陶淵明作品繫年」をもとに作成した。（台北・東大図書公司印行参照。）
- 四、方祖桑の説は、『陶淵明詩箋註校證論評』（台北・蘭台書局参照。）
- 五、表中の空欄は、各家の原著で空白になっているもの、年齢の下にある（？）印は、各家の原著で推論になっていたり、疑問符が付されているもの。
- 六、備考欄について

- ① ◎印は、記載年代が三者共通で、六三歳説の年代と共通するもの。
- ② ○印は、記載年齢が三者共通で、六三歳説の年齢と共通するもの。
- ③ ●印は、記載年代が三者あるいは両者共通で、六三歳説と共通する者があるもの。下の(姓)は、この項目と年代が共



通する六三歳説の姓の頭文字である。

④ △印は、前項③の年齢の共通を示す。その下の姓は③の場合と同じ。